

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 10-001416  
(43) Date of publication of application : 06. 01. 1998

(51) Int. Cl. A61K 7/00  
A61K 7/48

(21) Application number : 08-174186 (71) Applicant : KANEBO LTD  
(22) Date of filing : 12. 06. 1996 (72) Inventor : SAITO MASAHIRO  
KURODA AKIHIRO

**(54) SHEET-SHAPED PACK MATERIAL****(57) Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To prepare a sheet-shaped pack material, effective both for the adjustment of water content and the improvement of drying speed at the same time by forming fine pours on the surface of a peel off-type sheet-shaped pack material.

**SOLUTION:** This peel off-type sheet-shaped pack material has fine pours having diameter preferably in a range of 0.05-1mm on the surface. For forming the fine pores, e.g. a method, by which a sheet-shaped pack material is prepared, and subsequently deep holes are formed on the entire part of the sheet-shaped pack material using a brush-like roller of stainless wires, etc., is cited. The density of the fine pours is preferably 1-200 holes per 1cm<sup>2</sup>, and for effectively removing water it is preferable that the fine pores are formed on both the surface closely adhering to the skin and the surface of the opposite side. Further, the fine pores preferably reach up to two thirds or more of the thickness. Thus obtained pack material is good for increasing drying speed, excellent in the activity for removing sebum and aged keratin, and capable of giving excellent feeling in use.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's  
decision of rejection]

[Kind of final disposal of application  
other than the examiner's decision of  
rejection or application converted  
registration]

[Date of final disposal for  
application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against  
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998, 2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-1416

(43) 公開日 平成10年(1998) 1月6日

(51) Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K 7/00	L
	7/48		7/48	U

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-174186

(22) 出願日 平成8年(1996) 6月12日

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 斎藤 雅人

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 黒田 章裕

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 シート状バック料

(57) 【要約】

【課題】 乾燥速度が向上し、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、かつ使用実感に優れたシート状バック料を提供する。

【解決手段】 ピールオフタイプのシート状バック料であって、その表面に細孔を設けてあることを特徴とするシート状バック料。

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピールオフタイプのシート状バック料であって、その表面に細孔を設けてあることを特徴とするシート状バック料。

【請求項2】 細孔の直径が0.05～1mmの範囲にあることを特徴とする請求項1に記載のシート状バック料。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れたピールオフタイプのシート状バック料に関する。さらに詳しくは、ピールオフタイプのシート状バック料に細孔を設けることで、乾燥速度を向上させたシート状バック料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、角栓を除去することを目的としたピールオフタイプのシート状バック料が種々考案されている。このシート状バック料の一般的な使用方法としては、鼻などの毛穴の汚れが目立つ部位に水やローションを塗布し、この上からシート状バック料を密着させ、乾燥後に、同シート状バック料を剥離し、角栓や老化皮膚を除去する方法が挙げられる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、塗布する水やローションの量が少なかった場合には、角栓や老化皮膚の除去能力が大幅に低下する場合があります、また逆に水やローションの量が多かった場合では、乾燥時間が長くなる、粘着剤が溶け出してシートから分離するなどの問題があり、水分量のコントロールが汚れの除去能力を決める重要な要因となっている。しかし、使用者が自分で水分量をうまくコントロールすることは難しく、汚れの除去がうまく行かない場合も多かった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 この問題に鑑み、本発明者らは鋭意研究した結果、ピールオフタイプのシート状バック料であって、その表面に細孔を設けたシート状バック料が、水分量の調整および乾燥速度の向上を両立できることを見いだした。

【0005】 すなわち、本発明の請求項1は、ピールオフタイプのシート状バック料であって、その表面に細孔を設けてあることを特徴とするシート状バック料である。また、本発明の請求項2は、細孔の直径が0.05～1mmの範囲にあることを特徴とする請求項1に記載のシート状バック料である。

【0006】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態を詳述する。本発明で言う細孔とは、シート状バック料をその厚さ方向に全体もしくは一部を貫通する穴のことを意味し、その直径としては0.05～1mmの範囲にあることが好ましい。直径が0.05mm以下では、粘着剤が

2

細孔を封鎖して効果に乏しく、また、1mm以上では細孔から皮膚表面で溶解した粘着剤が滲出してしまい、角栓除去効果が低下する問題がある。

【0007】 本発明でいう細孔を形成には、シート状バック料を作製した後、例えば、ステンレスワイヤーのブラシ状ローラー等を用いてシート状バック料全体を貫通させる方法が挙げられる。

【0008】 また、本発明で用いる細孔の密度としては、細孔径との関係があるが、1平方センチメートルあたり1～200個が好ましく、さらに好ましくは10～100個が好ましい。細孔密度が1個未満では効果が弱く、また、200個を超えるとシート自体の強度が角栓を剥離する強度よりも弱くなり、角栓が除去しにくい問題がある。

【0009】 本発明の細孔は、シート状バック料の全体を貫通していても、一部を貫通していても構わないが、水を効果的に除くために、肌に密着させる面と反対側の面に細孔が開いていることが好ましい。さらに、細孔はシートの厚さの2/3以上の深さ、さらに好ましくは3/4以上の深さまで貫通していることが好ましい。

【0010】 本発明で用いるシート状バック料としては、従来公知のシート状バック料が全て適用可能である。シート状バック料は、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシメチルセルロース、酢酸ビニル、アルギン酸、アクリル樹脂、スチレン樹脂などの従来公知の粘着剤層を有し、シート状に成形されたものを指し、さらに不織布や織布などの支持体を設けてあっても構わない。

【0011】 また、鼻等の形に事前に加工してあっても、鼻の頭等の部位に細孔の密度を多くするなどの工夫がされていても構わない。

【0012】 本発明のバック料における粘着剤層の厚さとしては、10～2000μmが好ましい。

【0013】 本発明で用いるシート状バック料では、従来化粧料に使用されてきた各種の素材、例えば油剤、粉体（顔料、色素、樹脂）、フッ素化合物、樹脂、界面活性剤、粘剤、防腐剤、香料、保湿剤、生理活性成分、塩類、溶媒、酸化防止剤、キレート剤、中和剤、pH調整剤等の成分を同時に配合することができる。特に、平均粒子径5～300nmの微粒子酸化チタン、無水珪酸などの微粒子粉体を配合することが好ましい。

【0014】

【実施例】 以下、実施例及び比較例によって本発明を詳細に説明する。

【0015】 実施例及び比較例で用いた化粧料の評価は、各種肌症を有するパネラー10名に対して実施例および比較例で示した化粧方法にてバック料を使用してもらい、その結果をアンケート形式で集計した。結果はパネラーの何名が各評価項目に対して優れている、またはやや優れていると回答したかを示している。

## 【0016】実施例1

まず、次の処方と下記の操作にしたがってシート状バック

1. ポリビニルアルコール	8.5重量%
2. カルボキシメチルセルロースNa塩	1.0
3. ポリアクリル酸Na塩	1.0
4. プロピレングリコール	2.0
5. グリセリン	1.5
6. 微粒子酸化チタン（平均一次粒子径35nm）	12.0
7. カラギーナン	0.2
8. エチルアルコール	10.0
9. 防腐剤	適量
10. 精製水	適量
合計	100.0

【0018】操作方法：成分1～10を加熱混合した後、ポリエステル不織布に塗布し、70℃にて15分間乾燥した。ついで、ステンレスワイヤーのブラシ状ローラーを用い、0.5mmの細孔径にて、1平方センチメートルあたり100個の細孔密度で貫通孔を設け、さらにローラーで表面を均一にして表面の凹凸を整えた。

【0019】次いで、このようにして得られたシート状バック料を2cm×2cmに切断し、皮膚に水を塗布し、その上から切断したシート状バック料を圧着した。8分間の乾燥後、シート状バック料を剥離し、実施例1の試料とした。

## 【0020】比較例1

実施例1に於いて、貫通孔を設けない他は全て実施例1と同様にして比較例としてのシート状バック料を調製し、比較例1の試料とした。

【0021】顔を石鹸洗顔後、鼻部に水を塗布し、その上から実施例1と比較例1の試料を圧着して12分後にバックを剥離した。評価結果を表1に示す。

## 【0022】

ク料を調製した。

## 【0017】

【表1】

評価項目	実施例1	比較例1
角栓がよく除去できる	7	2
使用後のさっぱり感	8	2
使用後のつるつる感	8	2

【0023】表1の結果より、本発明の実施例の試料は比較例のそれと比べて角栓の除去効果に優れ、官能評価も優れていた。剥離段階での比較例の試料の乾燥が不完全であったことから、細孔により乾燥速度が向上したことにより、高い評価が得られたものと考えられる。

## 【0024】

【発明の効果】以上のことから、本発明は、乾燥速度が向上し、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、かつ使用実感に優れたシート状バック料を提供することは明らかである。